

知的障害者の家族のニーズ研究
—中播磨地区手をつなぐ育成会アンケート報告—

米倉裕希子¹⁾, 水谷 正美²⁾, 和田 知美¹⁾

Needs for family of people with intellectual disabilities.
-A reports of questionnaires for Nakaharima area Inclusion Organization.-

Yukiko YONEKURA¹⁾, Masami MIZUTANI²⁾, Tomomi WADA¹⁾

Object : With world wide expansion of efforts toward normalization people with disabilities have increased their hope of living in the community in Japan. However, reform of the system for disabled people has been changing very fast. Therefore, it is important that people with disabilities should propose essential services to improve the system. Against this background, we surveyed the needs of families with members who have intellectual disabilities. We asked them about difficulties in their daily lives for example when using services as well as about life in future. Then, we considered the need for services.

Subjects : We sent out questionnaires to members of the Nakaharima area Inclusion Organization which is a one of the chapters of Inclusion Japan. We also contacted families of people with intellectual disabilities living in the Nakaharima area through the civil service and school for special needs education. We sent or handed out 300 questionnaires and collected 134 completed questionnaires in response (45%).

Results : Families using formal services indicated satisfaction with the quality and quantity of services. Older people with intellectual disabilities tend to make less use of formal services than the relatively young that did use these services and they were insufficiently informed about the services that they were eligible to use. They hope that current services will be modified to become more flexible and adapted to the community. Most family expresses a considerable of concern about their future, and they hope their children will live in an institution for persons with disabilities.

Conclusion : Municipalities should provide both services and information, and should pay particularly attention careful about providing information for older people who can not follow the changing reform systems, and promote the use of the available services. Furthermore, they should strengthen consultation support businesses. Lastly, we hope services will be modified according to the community character. The structure of 'Community services and support council' should hereafter be examined in order to reorganize the council, so that it will satisfy such expected actions.

Key words : family support system, intellectual disabilities, Inclusion Organization
家族支援 知的障害 育成会

1) 近畿医療福祉大学 (Kinki Health Welfare University) 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5

2) 社会福祉法人高岡の里福祉会 (もちの木園 Social welfare corporation Takaokanosato, Mochinoki Insutitution)
〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡74番地1

1. 研究背景と目的

ノーマライゼーションの浸透とともに、脱施設化が叫ばれるようになり、我が国においても、在宅サービスを利用しながら、地域生活を希望する障害児・者のニーズが高まっている。そして、そのようなニーズに応える社会の仕組みをどのようにしていくべきなのかが重要な課題となっている。

我が国の障害福祉制度は転換期を迎えている。2003年に創設された支援費制度では、それまでの措置制度から利用契約制度に変わった。さらに2005年に障害者自立支援法が成立し、2006年から施行されている。

障害者自立支援法は、支援費制度における課題を解決し、一層の充実をはかるため、①身体、知的、精神といった障害種別ごとのサービスを一元化した、②地域格差をなくすため、市町村が窓口となって一元的にサービスを提供する、③増大するサービス利用にかかる財源の確保をするため、利用料の原則1割自己負担、④就労支援の強化、⑤支給仕組みの透明化などを特徴としている⁽¹⁾。応益負担や事業形態などに対する不満は多く聞かれ、障害者自立支援法はいくつかの課題が残されているものの、市町村に窓口が統一されたことや「入所施設」といった概念がなくなるなど新たな展開を迎えている。

このような背景の中で、障害者が地域であたりまえの暮らしをしていくために真に必要なサービスを見出し、提言していくことが必要である。ノーマライゼーションはデンマークの知的障害者の親たちの運動から始まり、世界へ広まっていった。ノーマライゼーションの理念が世界に、障害者の福祉、生活に大きな影響を与えたことはいうまでもない。

知的障害者にとって家族は、身近な支援者であり、代弁者となることが多い。一方で、

障害者の地域生活を支える福祉制度や社会の理解が不十分な現状において、障害者を支える家族への負担は大きく、家族支援は必要不可欠なものである。

よって本研究の目的は、家族へのアンケートを通して、知的障害者本人の現在の生活や、サービス利用の状況、また将来の生活について率直な家族の気持ちを聞き、地域社会における障害福祉のあり方、今後の家族に対するアプローチの方向性について検討することである。

2. 研究方法

(1)対象者

対象者は、中播磨手をつなぐ育成会の会員とした。手をつなぐ育成会は、知的障害のある子どもをもつ親の会として、1952年に設立され、現在では47都道府県すべてで結成されており、都道府県・政令指定都市育成会、市町村、施設、学校単位等の会などがある。また、最近では「知的な障害」のある「本人たちの会」の活動もはじまっている。現在、47都道府県と政令指定都市育成会、都道府県・政令指定都市育成会の会員総数は、正会員、賛助会員合わせて296,410人である⁽²⁾。

中播磨手をつなぐ育成会は、兵庫県育成会の支部として1988年に設立され、福崎町、神川町、市川町の3町村からなり、会員数は現在142人である。中播磨手をつなぐ育成会の主な活動として、①中播磨地区ゆうあい運動会、②親と子の集い、③障害者スポーツ教室、④学齢部会活動、⑤家族研修、⑥当事者研修、⑦姫路市育成会との連絡会議、⑧知的障害者相談員による相談、などがある。

中播磨手をつなぐ育成会の会員、また育成会会員以外にも、できるだけ地域の家族の声を集めるために、地域の特別支援学校、行政

窓口、社会福祉施設関係に配布し、協力を求めた。

(2) アンケートの内容

アンケートの内容は、中播磨手をつなぐ育成会の事務局と検討し、家族自身が家族に聞きたいことを中心に作成した。

アンケートの内容は、1) 家族の属性、2) 障害のあるお子さんの属性、3) 障害のあるお子さんの生活状況、4) 障害者自立支援法に基づくサービスについて、5) 障害のあるお子さんのこれから（将来）について、6) 育成会（親の会）に対する考え、の6項目である。（参考資料1参照）

(3) アンケートの収集方法

2009年1月に会員へ郵送した。会員以外は、関係機関から直接渡した。アンケート送付は、記入後、返信用の封筒で中播磨育成会事務局宛とした。

3. 結果

(1) 対象者の属性

配布300人のうち134人から回答が得られ、回収率は45%だった。134人のうち、母親89人、父親19人、兄弟姉妹11人、未回答15人だった。家族の平均年齢は53歳だった。

知的障害のある本人の性別は、男性が69人、女性が55人、未回答10人で、平均年齢は28歳だった。療育手帳保持者は116人で、未保持者が8人、未回答10人だった。

育成会の会員の方が80人で、会員以外あるいは未回答が53人だった。

(2) 現在の生活状況

生活状況については、「家族と同居」が70% (N=93)、「家族と別居」が21% (N=28)、

「未回答」が9% (N=12) だった。また、生活スタイルは、「通学通園」が45人、「通所施設」が29人、「在宅」が21人、「施設入所」が20人だった。（図1, 2参照）

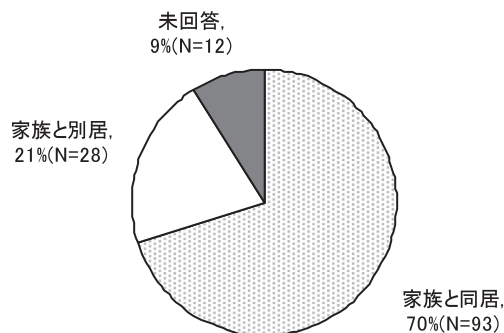


図1 現在の暮らし方

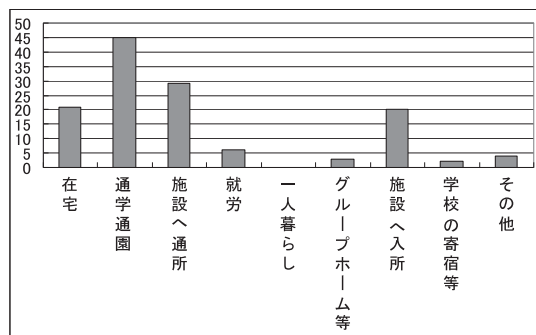


図2 日中の生活の場

サービス利用しているかについては、「はい」が58% (N=78)、「いいえ」が38% (N=50)、未回答が4% (N=5) だった。利用しているサービスは、通所施設がもっとも多かった。サービスを知ったきっかけについては、「福祉機関の紹介」が最も多く、続いて「行政機関の紹介」「親同士の口コミ」「教育機関の紹介」が挙げられた。

サービスを利用している人（図3参照）の中で、サービス内容についての満足は、「まあまあ満足している」が72% (N=56)、「とても満足している」が21% (N=16)、「あま

り満足していない」が6% (N= 5)、「満足していない」が1% (N= 1) だった。(図4参照) サービス量についても、「まあまあ満足している」が71% (N=54)、「とても満足している」が20% (N=15)、「あまり満足していない」が8% (N= 6)、「満足していない」が1% (N= 1) だった。(図5参照)

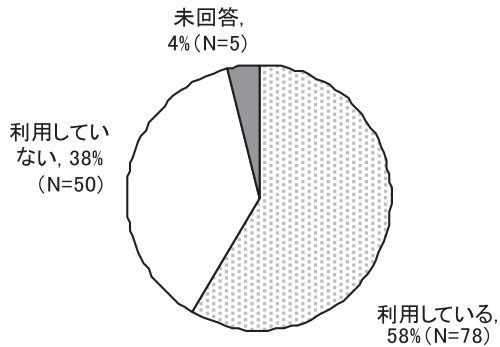


図3 現在のサービス利用

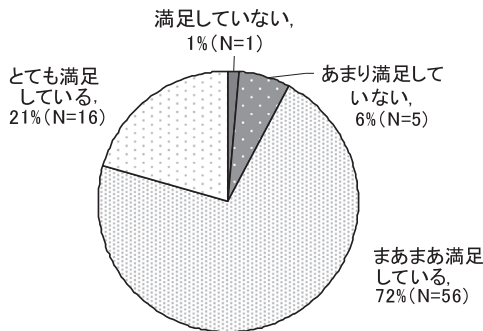


図4 現在のサービス内容に対する満足度

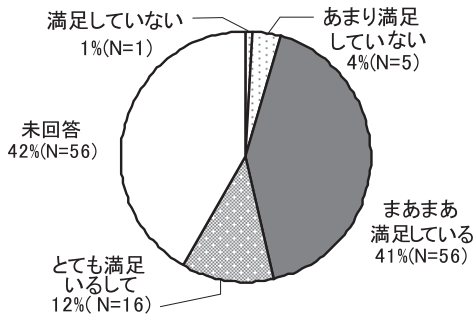


図5 現在のサービス量に対する満足度

しかし、利用しているサービス以外のサービスについては、「あまり知らない」が46% (N=40)、「まあまあ知っている」が33% (N=28)、「知らない」が20% (N=17)、「とても知っている」が1% (N= 1) だった。また、現在利用しているサービス以外の利用は、「少し考えている」が34% (N=28)、「あまり考えていない」が33% (N=27)、「考えていない」が7% (N= 6) だった。(図6, 7参照)

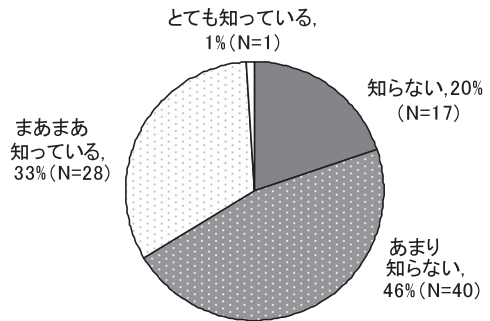


図6 現在利用しているサービス以外のサービスの認知

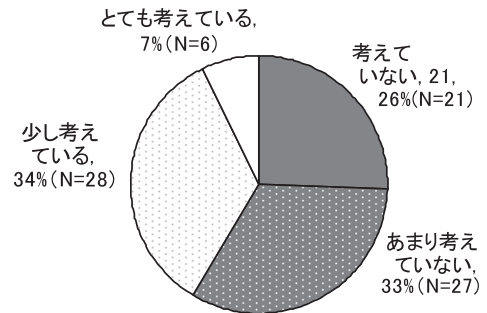


図7 現在利用しているサービス以外のサービスに対する希望

「こんなサービスあったら良いのと思う」福祉サービスについて、自由に記述してもらった内容を分析しまとめた。最も多かったのは、「送迎サービス」で9、続いて「入所施設の充実」6、「医療的なケアの充実」3、「訓練」3で、その他、「相談機関」「一時預かり」

「余暇支援」「ショートステイ」などがあった。
(図8参照)

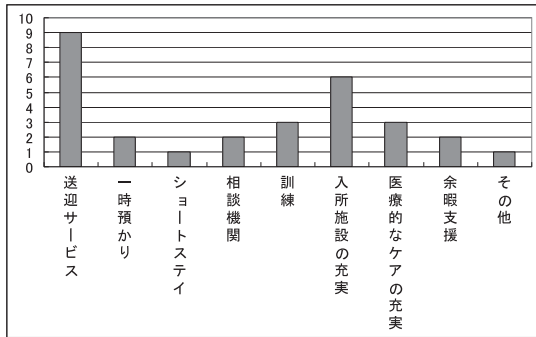


図8 期待するサービス内容

(3) 障害者福祉制度について

障害者自立支援法を知っているかについては、「言葉だけは知っている」が41% (N=55)、「内容を見たことがある」が31% (N=41)、「内容もよく知っている」が13% (N=18)、「知らない」が13% (N=17)、未回答が2% (N=3) だった。(図9参照)

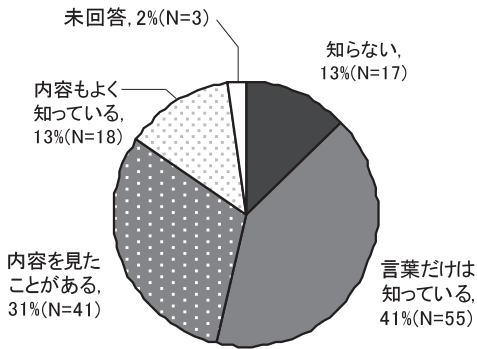


図9 障害者自立支援法に対する認知度

障害者自立支援法の利用できるサービスについては、「やや知っている」が39% (N=52)、「あまり知らない」が27% (N=36)、「知らない」が20% (N=27)、「よく知っている」が12% (N=16)、未回答が2% (N=3) だった。利用できるサービスの説明については、「説明されたことはあった」が58% (N=77)、「説明されたことはない」が23% (N=31)、「充分説明された」が12% (N=16)、未回答が7% (N=10) だった。(図10,11参照)

「説明されたことはない」が23% (N=31)、「充分説明された」が12% (N=16)、未回答が7% (N=10) だった。(図10,11参照)

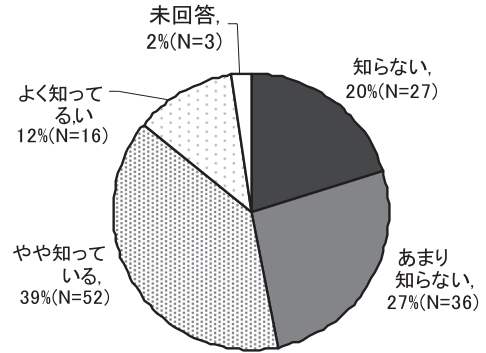


図10 利用できるサービスについての理解

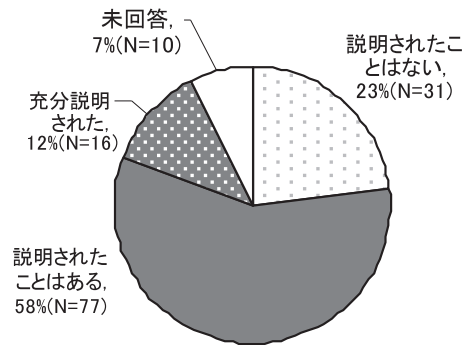


図11 利用できるサービスについての説明

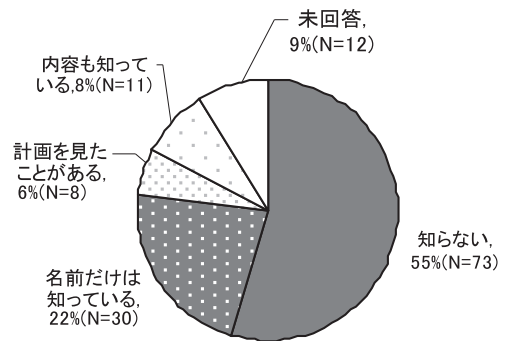


図12 障害者福祉計画に対する認知度

また、障害福祉計画のことについては、「知らない」が55% (N=73)、「名前だけ知っている」が22% (N=30)、「内容を知っている」

が8%(N=11)、「見たことある」が6%(N=8)、未回答が9%(N=12)だった。(図11参照)

(4) これからの生活について

これから(将来)に不安は、「とてもある」が57%(N=76)、「まあまあある」が22%(30人)、「ない」が4%(N=5)、「あまりない」が3%(N=4)、「あまりない」が3%(N=4人)、未回答が14%(N=19)だった。将来のお子さんの暮らし方についての希望は、「家族と別居」が41%(N=55)、「家族と同居」が28%(N=38)、未回答が31%(N=41)だった。(図13、14参照)

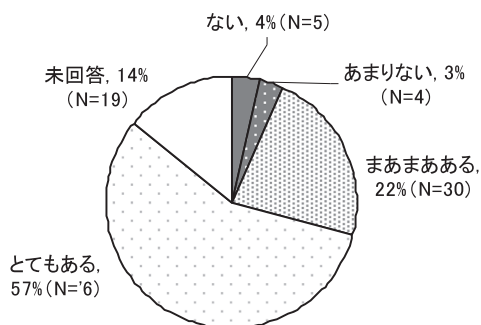


図13 将来に対する不安

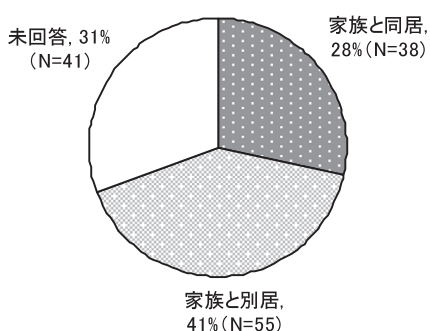


図14 将来の暮らし方の希望

お子さんの具体的な暮らし方について、複数回答で答えてもらったところ、「障害者の入所施設」が最も多く49人で、続いて「在宅」が26人、「福祉的就労」が22人、「グループホー

ム」が17、「ひとり暮らし」が6人いた。(図15参照)

将来の不安について、自由に記述してもらった内容をカテゴリーにわけまとめた。最も多かったのが、「施設に関する不安」16で、続いて「親亡き後の生活の不安」13、「兄弟関係の不安」12、「就職・就労の不安」6、「進学・進路の不安」6、「療育・教育の不安」4などがあった。(図16参照)

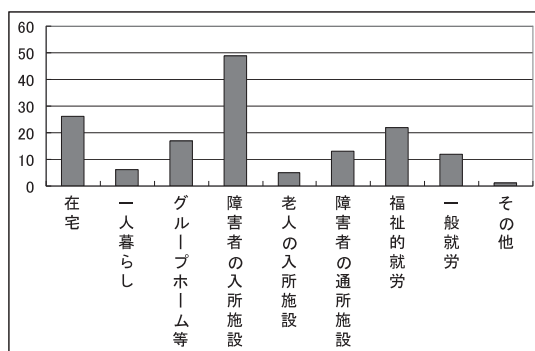


図15 将来、期待する生活の場

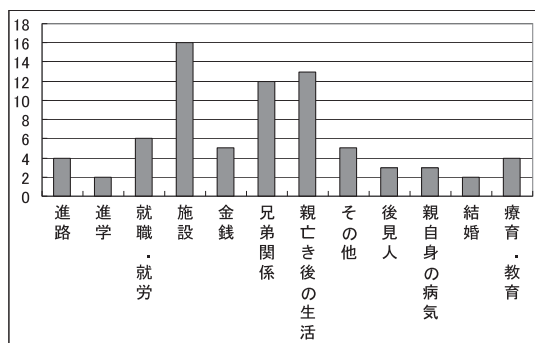


図16 将来の不安

(5) 親の会(育成会)への期待

育成会を知っているかどうかについては、「知っており会員」が60%(N=80)、「知らない」が18%(N=24)、「知っているが非会員」が16%(N=22)、未回答が6%(N=8)だった。育成会の活動に参加したいかどうかについては、「まあまあ思う」が38%(N=51)、「とても思う」が10%(N=13)を合わせて約半数の

方が参加したいと思っており、逆に、「あまり思わない」が28%(N=38)、「思わない」が8%(N=11)を合わせて約3分の1の方がそれほど参加したいと思っていないようだ。(図17、18参照)

また、育成会に期待することについて自由に記述してもらった内容を分析しまとめた。最も多かったのは、「組織運営面での課題を解決してもらいたい」16で、続いて「家族向けの研修」6、「本人向けの活動」3、「交渉団体サービス」3、「啓蒙、啓発」3などがあった。(図19参照)

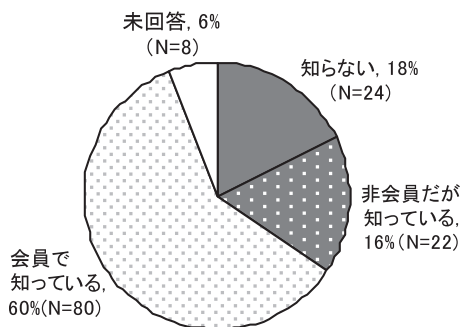


図17 親の会（育成会）の認知度

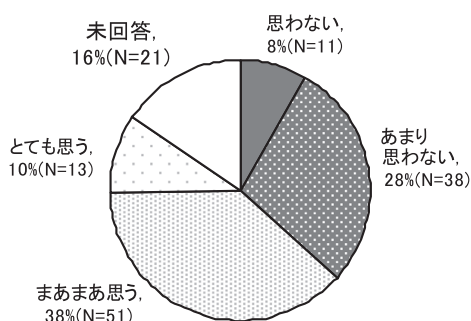


図18 親の会（育成会）への積極的参加

4. 考 察

本調査は、古くからあり全国組織である知的障害者手をつなぐ親の会の中播磨地区

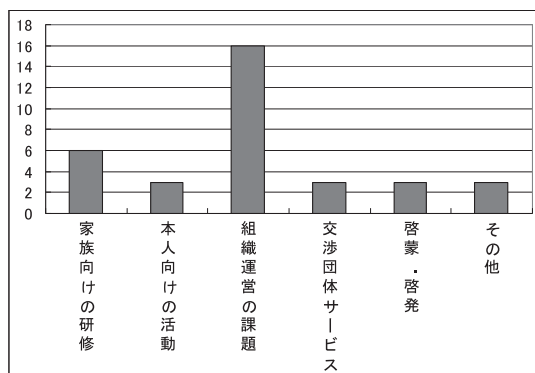


図19 親の会（育成会）への期待

手をつなぐ育成会の会員の方を中心にアンケートを実施し、この地域の障害福祉のあり方、今後の家族に対するアプローチの方向性を見出すために、現在の生活、これからの生活について率直な親の気持ちを聞いたものである。

アンケートは、障害のあるお子さんの年齢が4歳から72歳、ご家族の年齢も22歳から88歳と幅広い年齢層の方から回答を得た。そのため、兄弟姉妹の方がご回答下さったケースもあったが、回答者の大半が母親であり、支援への思いに対する母親の高い関心がうかがえた。

障害者自立支援法は、十分な理解とはいえないが、9割近い人に認知されている状況である。(図9参照)しかし、利用できるサービスについては、半数の人が「知らない」あるいは「あまり知らない」と答えており、4分の1の方が「説明がない」と答えている。(図10参照)サービスを利用している人は、サービスの内容や量に一定の満足を感じており、それ以外のサービス利用を考えている人は少ない。(図4参照)

サービスを利用していない人の理由は、「子どもにあったサービスがない」や「利用費用がない」などがあったが、多くは「特に理由はない」と答えている。また、サービスを

利用しているお子さんの平均年齢25.4歳で、サービスを利用していないお子さんの平均年齢は32歳で、サービスを利用しているお子さんの年齢は、有意に低かった。さらに、利用しているかどうかと利用できるサービスを「知っている」、「知らない」でクロス集計をし、カイ2乗検定をおこなった。その結果、利用状況と認知度に関連が見られた。(表1参照) 障害のある子どもの年齢が高く、サービス利用に関する情報のない方が、サービス利用につながっていないといえる。

そのため、特に年齢層の高い障害のある方に対して、昨今の障害福祉改革の状況が理解でき、適切なサービス利用につながるよう、情報提供や相談援助が重要である。

表1 サービス利用と認知度のクロス集計

	知っている	知らない	合計
利用有	31	47	78
利用無	29	20	49
合計	60	67	127

P=0.044

「こんなサービスあったら良いのと思う」福祉サービスについて、自由記述で回答してもらった内容を検討したところ、もっとも多かったのが送迎サービスだった。これは、バスや電車などの交通手段が限られており、移動手段が自動車に限られているといった地域的特性が影響していると思われる。

また、何か新しいサービスを求めているというよりも、一時預かりやショートステイ、入所施設等現在あるサービスの充実や柔軟な利用を望む声も多かった。地域性に配慮した柔軟なサービスの展開が求められているのだろう。

しかし、ノーマライゼーションが浸透し、西欧中心に施設解体が叫ばれ、日本においても障害者が地域であたり前の生活を望むこと

が受け容れられるようになってきた現在でも、アンケートの結果から期待する暮らし方で最も多いのは「障害者の入所施設」であった。(図15参照)そして、約8割の方が将来に対する不安がある。(図13参照)具体的には、施設の不安や親亡き後の生活などに対する不安があり、障害者を取り巻く価値は変わっても、変わらない家族の思いがある。それでも、以前であれば「一人暮らし」と答える家族はもっと少なかったのではないだろうかと思うと、変わらない家族像と変わりつつある家族の思いを感じる。

今回、育成会の会員の方を中心にアンケートに答えていただいた。会員の方は親の会の活動に積極的に参加したいと「まあまあ」あるいは「とても」思っているが、会員ではない方は「あまり思わない」あるいは「思わない」が多い。当然の結果ではあるが、会員の方の中にも、育成会の活動に不満を感じることがうかがえた。長い歴史の中で、組織が形骸化し、運営面での課題を多く抱えているのも事実だ。もちろん、これは育成会に限ったことではなく、地域の結びつきが希薄化する中で、地域に古くからあるさまざまな自治、自主組織が弱体化してきているといわれている。最近では、本人部会といわれるような障害のある当事者の活動を展開している育成会も多く、育成会の運営について検討が必要だ。もちろん、親の会は育成会に限らない。発達障害など障害概念が広がりつつある中で、親の会にも広がりがみられる。

5. 今後の課題

今回のアンケートの結果から、家族が期待しているのは、新たなサービスの創設や利用量を増やすといったことではなく、丁寧な情報提供とともに、地域特性に合わせた柔軟な

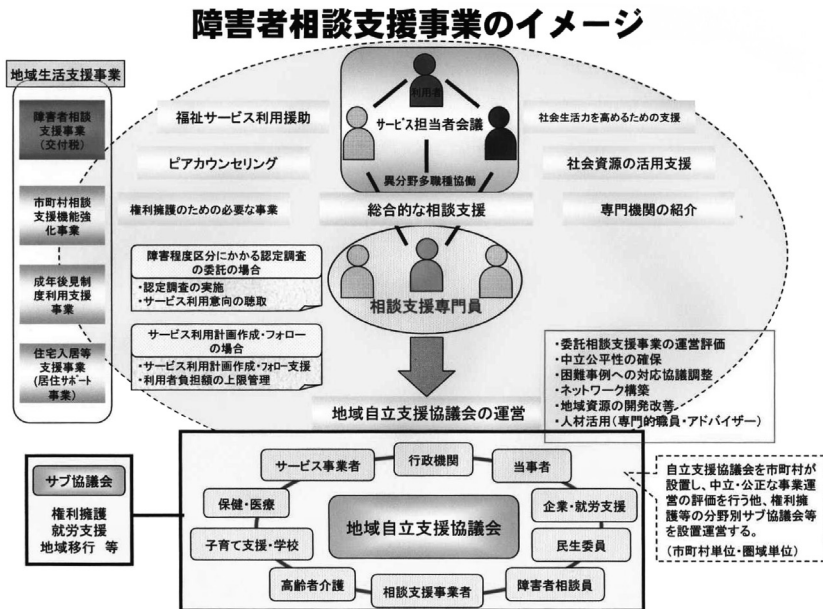
サービスの提供に基づく利用であった。そのために、1つは相談支援事業の充実と啓発活動が必要である。

Lipnsky (1987)⁽⁴⁾は、家族支援の枠組みとして、①情報提供 (outreach)、②家族/介護者の訓練 (family member/care giver training)、③カウンセリング (counseling)、④家族の息抜き (respite)、⑤移送サービス (transportation)、⑥特別援助サービス (special assistance service)、⑦経済的援助 (financial assistance)、⑧住宅援助サービス (housing assistance services)、⑨レクリエーション (recreation)、⑩危機介入サービス (crisis intervention services)、の10の項目を挙げている。①情報提供は全ての項目につながるものである。本アンケートでは、10項目の中でもとくに①情報提供、⑤移送サービスなどが強調されており、中播磨地域における相談支援事業の整備が急務であろう。

また、地域特有のニーズに合わせた柔軟な

サービス提供の中心として、現在注目されているのが地域自立支援協議会である。地域自立支援協議会は、市町村または複数市町村単位に設置され、障害児者が地域生活を送る上で課題となることについて、地域のさまざまな機関が参画し、協議しながらその解決を図っていく役割を担う。

現在、地域自立支援協議会を設置する市町村も増えてきており、有効に機能すれば障害者の地域生活を大きく変えていくものとして期待されている。地域自立支援協議会に参画するさまざまな機関には、相談支援事業者、福祉サービス事業者、保健、医療、学校、企業、権利擁護関係者、障害当事者などとともに、それ以外にも商工会、防災関連、市民団体など幅広い参加が想定されていることにより、当事者の声を地域に広げていく機会を持つことになる。運営の仕方によってはさまざまな障害者の地域生活の可能性を導き出す組織となるだろう。(図20参照)



2008年1月30日 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部
「障害者に対する相談支援事業について」より抜粋

図20 地域自立支援協議会

中播磨地区ではいまだ地域自立支援協議会の設置されていないため、早急な設置が期待される。

本調査は、育成会（親の会）が中心となり、家族の思いを確認し、障害者の豊かな生活を目指して、今後の活動の方向性を模索するために実施したものである。このアンケートが示したものは、転換期を迎える障害者福祉制度改革の中で、家族が福祉サービスに関する情報にアクセスできず、将来に対する不安をもっていることから、知的障害者の地域生活へ希望を見出せずにいるといった家族像である。

このようなことから、家族研修会などを通し、家族に対する情報提供と家族のエンパワメントを行っていく必要がある。現在の障害福祉制度の中においては、家族自身もまた福祉ニーズを抱える当事者性を有しているという認識に立ち、家族自身をエンパワメントする必要がある。先にも述べたように、現在の障害者自立支援法について、まだまだ議論の余地はあるものの、サービスの利用を権利と捉えられず、サービスの選択肢も少ない時代からは前に進んできたと感じる。障害者福祉を当事者主体へと変えてきた原動力の1つは、先にも述べたようにデンマークの親たちの運動から始まったノーマライゼーションや1970年代にアメリカで始まった重度障害者の自立生活運動、そして知的障害者の権利擁護のための運動であるピープルファースト運動などである。障害当事者、家族、そして社会全体が、障害者の思いやニーズを共有し、行政へ積極的な提案をしていくことで、障害児者の福祉の向上につながっていくと考える。

謝いたします。また、アンケートの実施及び回収等にご協力くださった中播磨地区育成会事務局の皆様には感謝いたします。

引用文献

- (1) 厚生労働省, 全国社会福祉協議会作成, 障害者自立支援法のサービス利用について. 厚生労働省, 全国社会福祉協議会, 2009, 2頁.
- (2) 社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会 HP (<http://www.ikuseikai-japan.jp/> 更新日2009年7月31日)
- (3) Lipsky, D. K. : Family supports for families with a disabled member, New York, world rehabilitation fund, 5-11, 1987.

謝辞

ご協力くださった全てのご家族の皆様へ感

中播磨育成会
地域の社会資源の利用に関するアンケート

このアンケートは、中播磨育成会が行っている家族会研修のための資料として用いるほか、市町村への提案の材料にしていきたいと考えています。他の目的で用いることはありません。

アンケートの結果は、統計的に処理するもので、個人を特定したり、一人の回答のみを問題にしたり、公表したりすることはありません。アンケートの趣旨を理解し、下記のアンケートにご協力下さいますようお願いいたします。

1. あなたのことについてお聞きします。(該当する番号1つに○をつけてください。)

(1) あなたのお住まいはどこですか？	①福崎	②市川	③神河	④その他
(2) あなたの年齢は？	() 歳			
(3) あなたの性別は？	①男性		②女性	

2. 障害のあるお子さんについてお聞きします。

(1) お子さんの年齢は？	() 歳			
(2) お子さんの性別は？	①男性		②女性	
(3) 療育手帳をお持ちですか？	①はい		②いいえ	
(4) 障害のあるお子さんとあなたの関係は？	①父	②母	③祖父祖母	④兄弟

3. 障害のあるお子さんの現在の生活についてお聞きします。

(1) 現在の、お子さんの暮らし方はどれですか？	①家族と同居		②家族と別居	
(1)の「暮らし方」の内容をお聞きします。 (2) 「⑧学校の寄宿」から「②通学通園」等複数選択も可能です。	⑥グループホーム等	⑦施設へ入所	⑧学校の寄宿等	⑨その他具体的に ()
(3) かかりつけの医療機関はありますか？	①はい		②いいえ	

(3)で「①はい」と答えた方にお聞きします。

(4) 医療機関の診療科を教えてください。	() 科	差し支えなければ病院等の名前 ()
	() 科	差し支えなければ病院等の名前 ()

4. 障害者自立支援法に基づくサービスについてお聞きします。

(1) 障害者自立支援法という言葉を知っていますか。	①知らない	②言葉だけは知っている	③内容を見たことがある	④内容もよく知っている
(2) 利用できるサービスを知っていますか？	①知らない	②あまり	③やや知っている	④よく知っている
(3) 利用できるサービスについて、誰かから説明を受けたことがありますか？	①説明されたことがない	----	③説明されたことはある	④充分説明された
(4) 現在、サービスを利用していますか？	①はい		②いいえ	

(4)で「①はい」と答えた方にお聞きします。注意(5)の①から⑩の分類は制度の事業形態には基づいていません。

(5) 利用しているサービスの種類は何ですか？(複数の選択可能)	①入所施設	②通所施設	③グループホーム等	④ショートステイ	⑤日中一時	⑪その他
	⑥外出支援	⑦ホームヘルプ	⑧送迎サービス	⑨相談支援	⑩デイサービス(ケア等)	
(6) サービスを知ったきっかけは何ですか？	①福祉機関の紹介	②教育機関の紹介	③行政機関	④親同士の口コミ	⑤その他 ()	
(7) 現在、利用しているサービスの内容に満足していますか。	①満足していない	②あまり満足していない	③まあまあ満足している	④とても満足している		
(8) 月の支給量はどれくらいですか。(たとえば ショートステイ 10日 とか)	()					

(9) 利用しているサービスの支給量に満足していますか。	①満足していない	②あまり満足していない	③まあまあ満足している	④とても満足している
(10) 利用しているサービス以外に、どのようなサービスがあるか知っていますか。	①知らない	②あまり知らない	③まあまあ知っている	④とても知っている
(11) 現在、利用しているサービス以外に、別のサービスを利用したいと考えていますか。	①考えていない	②あまり考えていない	③少し考えている	④とても考えている
(12) こんなサービスがあったら良いのに と思う内容を自由に書いてください。 (制度としてないものでも結構です)	〔 〕			

(4)で「②いいえ」のサービスを利用していないと答えた方にお聞きします。

(13) 今後、サービスを利用したいと考えていますか。	①考えていない	②あまり考えていない	③少し考えている	④とても考えている
(14) 現在、サービスを利用されていない理由を教えてください。	①知らなかった	②利用の必要がなかった	③必要なサービスが無かった	④その他
(15) 障害者自立支援法のサービス以外で活用されている社会資源があれば教えてください。 (たとえば、スイミング・子育て教室・など)	〔 〕			
(16) (4)の「サービスを利用していない」、ことで困っていることがありますか？	〔 〕			

5. 障害のあるお子さんのこれから(将来)の生活についてお聞きします。

(1) これから(将来)について不安がありますか。	①ない	②あまりない	③まあまあある	④とてもある	
(2) 将来(成人した後・親亡き後)お子さんにどのような暮らし方をしてほしいですか。	①家族と同居		②家族と別居		
(3) 「暮らし方」の内容をお聞きします。 たとえば、「②一人暮らし」で「⑦福祉的就労」等複数選択可能	①在宅	②一人暮らし	③グループホーム等	④障害者の入所施設	⑤老人の入所施設
	⑥障害者の通所施設	⑦福祉的就労	⑧一般就労	⑨その他具体的に ()	
(4) 将来にどのような不安がありますか。 自由にお書き下さい。	〔 〕				

6. あなたの住む地域や育成会(親の会)に対するあなたの考えについてお聞きします。

(1) あなたは、知的障害者の親の会(中はりま手をつなぐ育成会)を、知っていますか。	①知らない	②非会員だが知っている	---	④会員
(2) あなたの町の「障害福祉計画」を知っていますか？	①知らない	②名前だけは知っている	③計画を見たことがある	④内容も知っている
(3) 「自立支援協議会」というのを聞いたことがありますか？	①ない	②名前は知っている	----	④内容も知っている
(4) 中はりま手をつなぐ育成会の活動に参加したことがありますか。	①ない	②以前あったが今は無い	③しているが、やめたい	④参加している
(5) (4)で②③④と答えた方におききします。 育成会の活動についてどのように思いますか。	①満足していない	②あまり満足していない	③まあまあ満足している	④満足している
(6) 育成会の活動に積極的に参加したいと思いませんか。	①思わない	①あまり思わない	②まあまあ思う	④とても思う
(7) 育成会に対する希望がありましたら自由にお書き下さい。 (育成会に〇〇をして欲しい等、 不満、希望、要望 何でも)	〔 〕			

ご協力ありがとうございました。